

WHY CHEATING A CHEATER DOESN'T WORK

ごまかされてやり返すことは無駄なこと

ラリー・ラウアー博士

よくプレーヤーや親やコーチとの話題になる事に「ごまかし(cheating)」があります。相手をごまかした時にどうしたら良いかという対処法を尋ねると、「やり返す」という答が返ってきます。(相手にごまかされて良い結果に繋がれなかった)彼等のいたたまれない気持ちや、そういった相手にし返しをしてやろうという気持ちはわからないでもありませんが、それは良い解決策とは言えません。

コーチとしては「決してごまかさない」指導をすることの一言につきます。また、「やり返すようなことをしてはいけない」という指導も必要です。報復は効果的な対処法ではありません。そうすることで、自分のプレーをすることよりも、仕返しをすることに気をとられてしまっています。相手と同じレベルのプレーをしていることになり、相手の思うツボです。相手はそうすれば勝てることが分っているのです。仕返しをしたら相手はごまかしをやめると思いませんか。相手は輪をかけてごまかして来るでしょう。そして、悪循環が始まります。お互いにテニスをすることに集中していないので、酷い試合になっているだけでなく、ひいてはコーチや選手仲間や親たちからのあなたに対していつまでも続く悪評価に繋がります。やり返すことであなたも同類という評判がたってしまう。今度はあなたが「ごまかし屋」のレッテルを貼られてしまうようになるのです。こんな汚名、欲しくありませんよね。

更に悪いことに、そういった噂はあっという間に広まり、試合の度に相手はあなたの判定に敏感になり、先にごまかしてきたり、あなたの微妙な判定に疑問を投げ掛けてきます。特定の相手に対する一時的な対処であったことが、今度は相手に問い詰められるといった悪夢のようなことが度々起きることになったり、自分の判定を自問することにさえなってしまいます。

あなたの生徒たちが、ごまかしにごまかしで対応することがないように指導しましょう。そういった行為は、プレーの質を低下させるばかりか、結局は彼ら自身、ひいてはあなた方の評価を下げることに繋がってしまいます。悪い評判はすぐ広まりますが、それを打ち消すには非常に多くの時間がかかります。

【筆者紹介】 Dr. Larry Lauer : ミシガン州立大学(MSU)の“若者のためのスポーツ研究所”の指導者の教育と育成部間のディレクター。運動とスポーツ科学、スポーツ心理学の修士号を修めており、“Championship Performance Consulting, Lauer & Associates”を設立。MSUの男子チームのアシスタントコーチ、メンタルコーチをボランティアで務めており、“USTA Mental Skills & Drills Handbook”の主筆を務めた。国際スポーツ研究所から“アメリカで最も影響力のある100人のスポーツ指導者”の一人にも選ばれた。

【翻訳・監修】 鈴木眞一 : アト・イン桜テニスクラブ(柏市)代表 / PTR JAPAN代表 / インターナショナル・マスター & クリニック / PTRマスター委員会国際委員(2010-) / PTRマスタープロフェッショナル (2008) / PTRプロフェッショナル・オブ・ザ・イヤー (2001) / JPTRプロオブ・ザ・イヤー (1986) / 「テニス欠点矯正法」監修